

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部 臨床工学科

名前 古谷 大輔

作成日 2024年2月26日

【責任】

臨床工学科の1～4年の全学年の学生に対し、基礎および臨床医学を教育している。専門領域の授業担当科目は、生化学、基礎生物学、解剖学、臨床薬理学、公衆衛生学、医学概論、臨床医学総論、生体機能代行装置、基礎医学実習や医用機器安全管理学実習など計10科目以上に渡る。また、4年生にはゼミ担任として感染症に関する卒業研究を指導している。

【理念】

教育の理念は、授業や実習を通じた「専門知識とトラブルシューティング（問題解決）能力」と「コミュニケーション能力」の習得である。

病院や企業で臨床工学技士やフィールド・エンジニアとして働く際には、その状況に応じた対応力が日常的に求められる。適切に対応するためには、関連する基礎知識に裏打ちされた専門知識が必須であり、これが無いと問題解決に至らない。

また、実際の業務では患者様やカスタマーへの対応のみならず、チーム医療のように「チーム内での連携」が重要で、様々な職種の人たちと協力して業務にあたる必要がある。コミュニケーション能力は、円滑な業務遂行に重要なだけでなく、インシデントの早期発見や、医療過誤や医療事故などアクシデント防止にも役立つ。

【方針・方法】

高い専門知識の理解と問題解決能力を習得するため、（1）医学の基礎を覚え、理解すること、（2）臨床医学で重要なポイントを理解することを重点的に行う。また、コミュニケーション能力を養うために、学生が自ら考え発言できるような（3）アクティブラーニング授業の展開や、（4）学内での横断的な人的交流の促進を実施する。

（1）医学の基礎を覚え、理解すること

- ・予習や復習で役立つように授業資料（PDFファイル）を事前に配布している。
- ・ガイドラインや専門家の資料を用いることで、客観的かつ最新の情報を共有できるように改善した。
- ・授業は分野（領域）ごとに、「講義」、「小テストの実施」および「小テストの解説」を1クールとして実施し、基礎力の向上を図る。
- ・解説は、関連する動画の視聴を併用し、視覚的な理解ができるように工夫した。
- ・小テストの解説は、学生に当てることで理解度を確認している。

(2) 臨床医学で重要なポイントを理解すること

- ・医学を体系的・網羅的に理解するため、要点を絞ったスライドを用いて授業する。
- ・臨床現場のトピックスや問題点に焦点を当てる。
- ・重要なポイントについては、体験談（エピソード）を交えて具体的にイメージや理解ができるように工夫している。

(3) アクティブラーニング授業

- ・物事を考え、まとめ、発言・議論できるように、学生によるプレゼンテーションの導入を考えている。疾患などについて事前に分担しておき、関連する授業で5~10分程度解説し、質疑応答に対応する。

(4) 横断的な人的交流の促進

- ・他学部・学科の学生と交流できるような講習会等の開催を考えている。コミュニケーションを通し様々な意見があることを理解し、最終的なゴールへ向けて協調することの重要性を学ぶ。

【成果・評価】

- ・授業アンケート等の結果から、医学に関する学生の興味が向上していることがわかった。
- ・学生のテスト成績が向上した。

【目標】

長期目標

- ・授業の継続的な改善に取り組む。

短期目標

- ・コミュニケーション能力向上のため、アクティブラーニング授業を増やし、横断的な人的交流の促進を図る。